

南あわじ市前期基本計画に関する自己評価について

【総括の目的】

- 「後期基本計画」を策定するにあたり、令和3年度で終了する「第2次南あわじ市総合計画 前期基本計画」における取り組みについて自己評価を行います。
- なお、市では、「前期基本計画」の進捗・管理を行うため「基本施策」ごとに「第2次総合計画前期基本計画統括様式」を作成しており、これをもとにした進捗度評価を行います。

【進捗度評価の方法】

- 「第2次総合計画前期基本計画統括様式」において、まちづくり指標の達成率や計画期間中の主な取り組み状況を踏まえた上で、基本施策ごとに担当課が目標達成状況を以下の4つの区分で自己評価しており、この結果を進捗度として扱うこととしています。

評価区分	点数
目標達成に向け順調である	4
やや遅れているが、概ね順調	3
遅れが生じており、さらなる取り組みが必要	2
このままでは目標達成が難しい	1

【第2次南あわじ市総合計画の体系】

- 第2次南あわじ市総合計画の体系は以下の通りとなります。



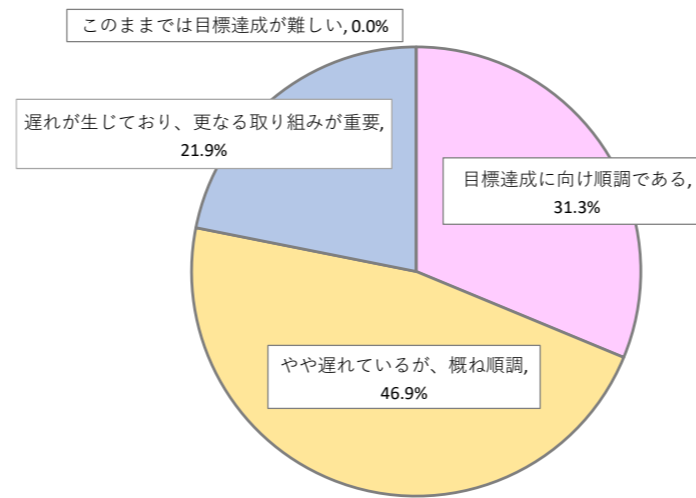
【進捗度評価の結果】

<全体の進捗度>

- 基本施策ごとに評価した計画全体の進捗度は、「やや遅れているが、概ね順調」が最も多く、32項目中約半数となる15項目(46.9%)となっています。次に「目標達成に向け順調である」が10項目(31.3%)、「遅れが生じており、更なる取り組みが重要」が7項目(21.9%)となっています。「このままでは目標達成が難しい」と評価した施策はありませんでした。

評価区分	項目数	割合
目標達成に向け順調である	10	31.3%
やや遅れているが、概ね順調	15	46.9%
遅れが生じており、更なる取り組みが重要	7	21.9%
このままでは目標達成が難しい	0	0.0%

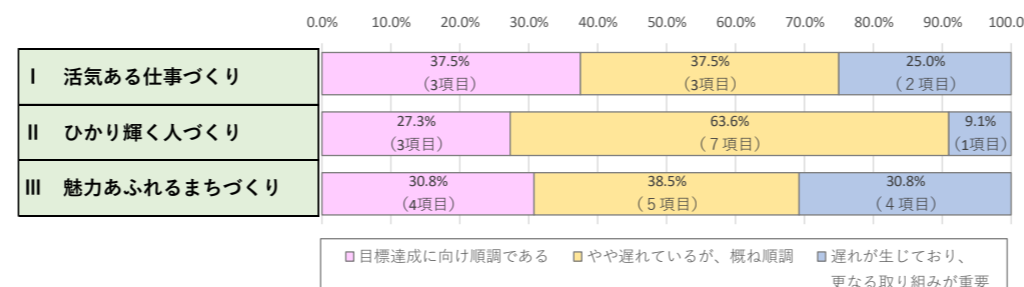
【図1】全体の進捗度



<まちづくり目標別の進捗度>

- まちづくり目標別の進捗度をみると、「目標達成に向け順調である」と「やや遅れているが、概ね順調」を合わせた“順調”の割合が最も多いのは『Ⅱ ひかり輝く人づくり』で“順調”が11項目中10項目(90.9%)となっています。
- 一方、「遅れが生じており、更なる取り組みが必要」の割合が最も多いのは、『Ⅲ 魅力あふれるまちづくり』となり、13項目中4項目(30.8%)となっています。

【図2】まちづくり目標別の進捗度



【今後の課題と方向性】

<Ⅰ 活気ある仕事づくり>

- 農畜水産業や淡路瓦などの地場産業については、高齢化の進行や担い手不足の状況にあり、引き続き後継者の育成確保が重要課題といえます。また、経営の安定を目指した高付加価値化などの取り組みも継続して推進していきます。
- 働く場の創出については、これまで行ってきた企業誘致等の対策を推進するとともに、コロナ禍による働き方改革やテレワークの拡大などのニーズにも対応していく必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、特に観光分野において大きくなっており、今後はウィズコロナ時代の新しい生活様式に則した受け入れ態勢の構築も重要となっています。

<Ⅱ ひかり輝く人づくり>

- 今後はさらに、行政と地域が一体となった子育て環境の整備、教育の質の向上などに取り組むとともに、郷土愛の醸成を目指した地域住民との交流などを推進します。
- 教育環境の整備については、ICT環境の整備などが進む一方、施設の老朽化対策に遅れが出ており、今後の授業様式に沿った改修を速やかに行うことが課題となっています。
- 人の集まるスポーツ、文化・芸術活動は、利用の制限や規模の縮小などが余儀なくされる中、感染症対策を徹底しながら、利用者ニーズに対応した取り組みを推進します。

<Ⅲ 魅力あふれるまちづくり>

- 安心安全なまちづくりの必要性が高まる中、自主防災組織や消防団、老人クラブの高齢化が進行しており、担い手の確保など活性化に向けた取り組みが重要課題となっています。
- 南あわじ市の豊かな自然環境を守るためには、環境保全活動や環境負荷の少ないエネルギー推進について、更なる取り組みが必要です。
- 人口減少・少子高齢化が進行する一方、新しい価値観に伴う働き方から「地方移住」に対する意識には高まりがみられており、今後は、新たなニーズを踏まえ、「関係人口」の増大からの将来的な移住・定住へと転換する施策の検討等にも取り組んでいきます。
- 誰もが住み慣れた地域でいきがいを持って生活できるよう、引き続き地域コミュニティの活性化や医療・福祉の充実に取り組むとともに、良好な住環境・生活環境の整備を推進します。